

# 年頭のご挨拶

## 皆様のご援助と ご協力に深く感謝!



小須戸町長  
轡田 奈賀雄

平成三年、未年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。町民の皆さん、一人ひとりが益々健康で、良い未年になることを心からお祈り申し上げます。過ぎた、午年平成二年を振り返ってみますと、先づ国内的には、

一、天皇陛下には、十一月十二日即位礼正殿の儀を行われ、高御座に昇御せられて、お言葉をお述べさせられ、即位を内外に宣明遊ばされ、即位礼には、百六十数カ国からの代表をはじめ、内外二千七百人が参列、さらに大嘗祭が十一月二十二日に肅行され、国民の沸き上がる歓喜と、どよめきの中に行われ歴史と伝

統を内外にくまなく伝えられたこととあります。

二、町におきましては、町制施行百周年記念を迎え、記念事業式典が町民総参加により百周年にふさわしいイベントとなり、町政の一頁をかざる事が出来、心から感謝を申し上げます。

三、役場の機構も時代進展に伴い行政事務が複雑、多様化し、また課名も解り易い、親しみのある名称にすることし十八年間続いた四課制を八課制に改め町民サービスの向上、能率化の進展を図ったこととあります。

世界的には国際化の進展に伴い、ウルグアイラウンド農業交

渉では、わが国の農業全体に大きな打撃を与えるような提案が一部輸出から出され、米の市場開放は国民共通の命題で、粘り強い交渉が進められています。また、イラクのクウェート侵攻は湾岸危機を招き、軍事的にも、経済的にも世界平和をおびやかしています。

新しく迎える平成三年も、国内的にも、国際的にも、思想的にも、経済的にも一層厳しい事態も予想されることとあります。お互いの英知と努力で来るべき二十一世紀に向けて平和と安定を希求し、苦難を乗り越けていきたいと思います。

例年、年頭にご挨拶と併せて、新年度の計画や、所信の一端を申し上げてきたところでありましたが、皆様も既に聞きおよんでおられることと思えます。去る十月十四日後援会の支部長並びに拡大役員会において私は、次期町長選には健康上の理由で出馬しないことを声明し、了承を得、今限りで退任する決意を致しました。私の任期が平成三年二月十一日であり、平成三年度の事業計画と予算編成は二月三日に誕生する新町長によって行われることとなります。

新しい町長になりましたも国県の継続事業、町の継続事業は当然に続行され、平成三年度は、二次小須戸町総合計画の最終年度であり、第三次総合計画を策定しなければならぬ年度であります。駅うら住宅団地開発事業、ふるさと創生事業、小須戸橋歩道事業は、平成三年度も継続事業として、予算計上されなければならぬ事業であります。

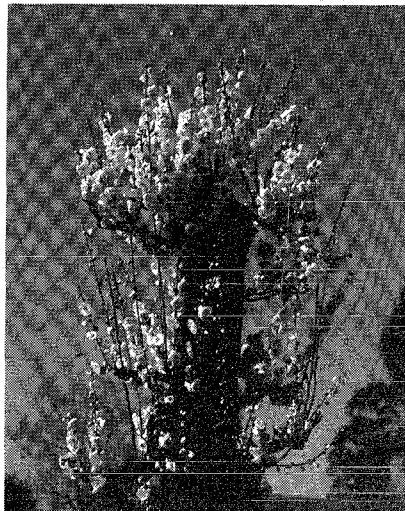
任期満了今期で退任

在任八年間を顧みて

昭和五十八年二月六日の町長選挙に、皆様のご協力、ご支援により、町長に当選の栄を得、二月十二日町長に就任してから八年、いま当時のことを振り返ってみますと、昭和五十八年は選挙に明けて、選挙に暮れた年でありました。二月町長選挙、四月統一選挙、六月の参議院議員選挙、十二月の衆議院議員総選挙と五回の選挙が行われました。

地方の財政はともに大幅な収支不均衡の状況から一層の厳しさを迎えておりました。

しかし、昭和五十六年に策定した「第二次町づくり基本構想」に基づき、五年間の基本計画をつくり新年度予算をつくる時は、財政事情を精査し、三年先の想定予算をつくる仕組で収支の均衡とれた健全財政を基調とし、計画的な事業遂行と効率的な予算執行に努めてまいりました。起債依存も限度があります。公債費比率の上昇は極力おさねなければなりません。常に創意工夫、英知を出し合って、教育・文化・福祉の向上、生活環境の整備改善を図り、人づくりを柱に、花と緑の町 明るく、



健康な、住みよい活力ある町づくりに努めたつもりであります。その実績、成果は町民の皆様方の評価によるものであります。

皆様へのあたたかい  
ご支援とご協力に感謝

いまここに二期八年の任期も終ろうとしております。この間町長として何をしたかといっても言葉が出てきません。気になすることも多々あります。

ただ微力でありましたが、全力をあげて、私の座右の銘「急がず休まず」勤めさせて頂きましたことは確であると自負しております。残る一ヶ月余の任期も最後まで頑張り尽す所存であります。

永い間勤め尽くすことが出来

したことは、議会をはじめ、町民の皆様のご理解と、ご支援、ご協力のたまものと衷心より深くお礼を申し上げますと共に今後益々のご発展と、ご健康を祈念し、年頭のご挨拶といたします。

平成 三年は未年です。羊は「おとなしい」「柔順」「群れになる」「などのイメージがあります。何よりもわたしたちが実感できるのは、ウールのセーターや皮製品の肌ざわりと温かさです。

羊は紀元前六千年ごろ、家畜化されたといわれています。馬が家畜化されたのが、紀元前三千〜四千年ごろですから、羊と人間の付き合いは、かなり長いこととなります。

日本 には羊にまつわる諺があまり多くありません。

すぐに思いつくところでは「羊の皮を着た狼」「羊頭狗肉」くらいのもので、曲がりくねった山道を「羊腸」と表現しますが、これはちよつと古奥い感じがしますね。では、なぜ羊に関する諺が

## 今年 は 未 年

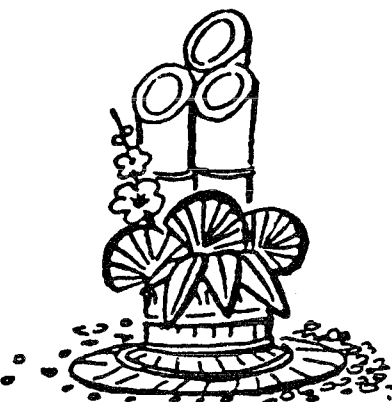


本書記に記されています。しかし、羊は乾燥した風土が好きなので、日本の気候に合

多くないのだからといわれています。

明治の初期、政府は綿羊の飼育振興を試みましたが失敗。その後、軍服などの製造のために、羊の飼育が奨励されました。また戦後は農家の副業として、多いときは百万頭も飼育されてきました。しかし、現在の飼育頭数は、北海道や東北などを中心に、三万七百万頭くらいに過ぎません。最近では、全国各地で観光牧場などの整備が進み、子供たちが羊を見る機会が増えました。

羊毛は、天然繊維の人気上昇で、日本での需要が増えています。外国産が中心で、オーストラリアやニュージーランドなどから輸入しています。さて、「一年の計は元旦にある」といいます。今年の目標を決め、迷える羊、にならないよう、スタートを切りたいものです。



### 小須戸橋が交通規制されます

小須戸橋歩道橋建設工事のため、左記のとおり交通規制されますのでご協力をお願いします。

期間 平成2年12月24日〜平成3年3月9日

9時から16時まで

規制 定期バスの運行時間を除き、一日数回二時間程度の車輛全面通行止。尚、歩行者・自転車は通行可能。